

# 糖尿病治療の個別化のための

# SoloSmart® Solution

出席者(発言順) さいしょ糖尿病クリニック 院長 稲所 芳史 先生

医療法人南昌江内科クリニック／一般社団法人 南糖尿病臨床研究センター センター長 前田 泰孝 先生  
綾部市立病院 内分泌・糖尿病内科 部長 大坂 貴史 先生

開催日: 2022年12月2日 オンライン開催:サンofi本社、TKPガーデンシティ天神、Brilliant Port

医療の世界でもデジタル化の波は急速に進んでおり、糖尿病治療においても患者さんの血糖管理にPHR(Personal Health Record)などが活用されています。本企画ではPHRの活用経験が豊富な先生方にお集まりいただき、シンクヘルスの導入時の工夫や適した患者像などについてご紹介いただくとともに、インスリン投与情報を簡単にシンクヘルスに転送できるSoloSmart®への期待についてお話をいただきました。

## 糖尿病注射薬による治療におけるアンメットメディカルニーズ

**稻所** JDDMのデータでも示されているように<sup>1)</sup>、注射薬を使っている方のHbA1cがむしろよくないというのは、やはりインスリン導入が遅れてしまっていることが要因の一つであると考えています。実際、限られた診療時間の中では、手技なども含めた説明をする時間がなかなか取れない、患者さんが医療費を気にする、注射に抵抗感があるなど、様々な理由で導入に時間がかかってしまうという課題はいつも感じています。

**前田** 医療費の問題は確かに大きいと思います。良好な血糖コントロールを目指すためには、インスリン導入後に持続血糖測定(CGM)の利用が必要となることもありますが、月々の医療費負担も大きくなってしまいます。また、心理社会的な要因が治療に大きく影響します。例えば、うつ傾向の方などは血糖測定のアドヒアラנסがよくないという報告もあり、心理的

なサポートというのが糖尿病治療の中でまだ足りていない部分だと思います。

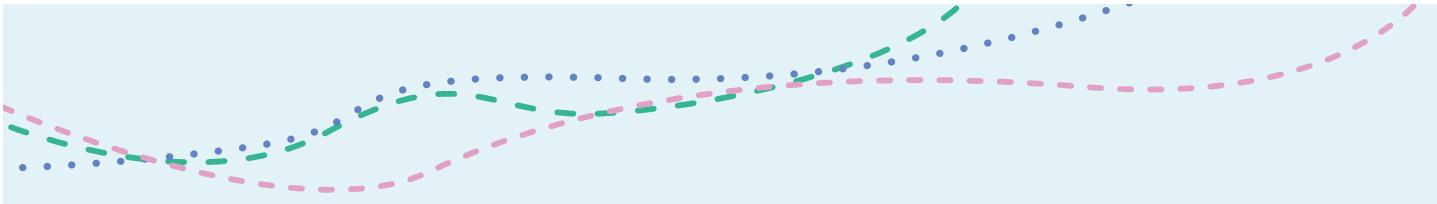
**大坂** 患者の数が多いため診療時間を十分に取れなく、診療期間もどうしても空いてしまいます。患者さんも自身の状態を客観的に診てほしいと考えて来院されていると思いますが、例えば、なぜHbA1cが悪化したのか原因を探るとしても、限られた診療時間の中でインスリン注射や食事の詳細を把握するのは困難です。診療時間を長く取れないからこそ、診療の質を維持するためにそういった問題を解決することが必要だと感じています。

1) 一般社団法人糖尿病データマネジメント研究会 基礎集計資料  
(2021年度) (<http://jddm.jp/public-information/index-2021/>)

### — 血糖管理が難渋する要因の一例 —

短い時間で1～2カ月前の過去を遡ることは難しいです…





## 施設のデジタル化の状況

**前田** チーム医療を行う上でCGMやPHRを活用したいと考えており、データをタブレット端末で誰でも見られるようにしています。それらの導入には労力が必要ですが、多くのスタッフが関わってくれています。PHRは全ての機能を使いこなすのはなかなか難しいですが、職種ごとに必要な機能を活用していくという作業を現在行っています。スタッフも比較的ITリテラシーが高いため、そのあたりの対応も問題なくやれています。

**税所** 当院ではPHRと自己血糖測定(SMBG)を連携させて活用しており、SMBGを導入する患者さんには診療時にPHRとの

連携までセットで行っています。導入後はリアルタイムで患者さんの状態を把握できますし、患者さんも自己血糖記録をつける必要性がなくなり、データの保存も非常に簡単です。以前は診療時間中に問題点を洗い出せないという課題がありましたが、現在は患者さんが来院される前にデータを見て対応できます。また、クラウド式の電子カルテを使っているため、ブラウザを変えれば同じ端末でPHRの情報も見られるので、スタッフ全員が患者さんの情報をスムーズに扱えています。

**大坂** 当院ではSAPやCGMの導入が進んでおり、そのデー

## SoloSmart® Solution

### シンクヘルスの活用に必要な3つの工夫

#### ◆ 導入は目の前でもらうことが大切

**前田** シンクヘルスの導入に関しては、スタッフの受け入れはスムーズでしたが、患者さんに使っていただくのに少し苦労しました。最初の説明で理解されたと思っていても、次の診療時にアプリすら入っていないという状況も多々ありましたので、導入していただくまでは手取り足取りお教えして対応しています。また、当院では週に1回カンファレンスをしており、問題の多い患者さんの情報をスタッフ間で共有することもあります。

**税所** 当院は開院時にシンクヘルスを導入したこともあり、スタッフが感じる障壁はありませんでした。スタッフ自身が食事の記録などを実際に試してみてから始めたのも良かったと感じています。患者さんへの導入では、パンフレットのQRコードや電話番号で登録し、当院との連携のコードを入れていただくステップまではそれほど時間はかかるないので、診療時に目の前でやってもらうようにしています。

**大坂** 当院がある地域は高齢者が多いのですが、スマートフォンの保有率は結構高いという特徴があります。自分で記録をつけて血糖管理をするようなマメな方も多いので、そういう患者さんにシンクヘルスの説明をすると便利そうだと喜ばれます。診療が終わってからご自分でアプリをインストールされる方はほぼいません。やはり、目の前で登録、ある程度の使い方まで把握していただくということがとても大切であると痛感しています。

#### ◆ 患者さんに興味を持ってもらうための工夫

**税所** 診察や治療支援の場で、いつでも説明できるようにパンフレットは常に用意しています。紹介のタイミングですが、血圧手帳をお渡しする際や、体重計や血圧計を購入される際に「連携できるアプリがあって入力の手間が省けますよ」などとお話ししています。興味を持てるタイミングで声をかけ、実際の利便性を感じていただくことで、患者さんのモチベーション向上につながっていると感じています。

**前田** 当院ではSNSやホームページ、院内のサイネージなど、様々なチャネルを利用して興味を持ってもらうよう訴求しています。シンクヘルス導入後も、療養指導の場で看護師や栄養管理士に支援してもらしながら患者さんにとって身近な食事の記録などの機能を利用していくと、抵抗感なく受け入れられ、理解が深まりやすいと感じています。

**大坂** 患者さんと医療者側の双方で情報を共有し、それを基に治療行動を決めていくのがシンクヘルスの大きなメリットです。自分の頑張りを見て欲しいと考えている患者さんも多いので、「記録されたデータはわれわれも見ることができて、次に来院された際にその情報を基にお話できます」ということをお伝えすると、患者さんもそれだったらやってみようかな、と前向きに捉えてくれています。

タをクラウドで管理していたのですが、電子カルテに同期できないという問題があり、それを改良できないか思案していました。幸いなことに、当院はシステムエンジニアが常駐しているという恵まれた環境であるため、事前にセキュリティリスクを洗い出し、それを排除した上でSAPやCGMのデータと電子カルテを部分的に同期させるシステムを構築することができました。医療システムのデジタル化を進める上では、医療スタッフだけではなく、事務やシステム担当者との連携も大切です。院内調整はなかなか大変ですが、導入のメリットは大きいと感じています。



#### ◆ 継続して利用してもらうための工夫

**大坂** これはどんな治療サポートにも共通しますが、やはり患者さんを評価してあげることが大切です。例えば、「歩数が多くった週は血糖値が下がりましたね」と具体的な行動と数字の変化を褒めてあげると、患者さんのモチベーションも上がります。患者さんも事前に自身のデータは把握しているはずですが、診察室で同じ画面を見てフォローしてあげるという“情報の見える化”をすることがとても大切であると考えています。

**税所** 外来時の数字を確認するだけでは体重や血糖値の変化は点でしかわかりませんが、シンクヘルスだとその流れがシームレスに分かれます。画面を見ながら血糖値や体重の変化を指摘し、「上がってきたときに早めに気がついて修正していますね」と評価してあげると患者さんも「今の方向性で問題ない」と

納得してくれます。また、医師だけではなく、看護師や管理栄養士などからもフィードバックしてあげると納得感も高まります。

**前田** 私もデータの評価をしてあげることが大切だと感じています。シンクヘルスとの親和性が高いCGMのデータを見てフィードバックしてあげると患者さんとしてはメリットを感じやすいと思います。また、これは今後の期待なのですが、データの解析結果をビジュアル化して示すようなツールがあれば、継続利用への動機づけになるのではないかと考えています。実際、CGMの解析アプリを使うと血糖コントロールが良くなると言われており、そのようなフィードバック機能があると患者さんの治療行動も変わってくるのではないかと期待しています。



## SoloSmart®への期待

### ◆打ち忘れは誰にでもあるからこそ、自動的に記録されるSoloSmart®が活躍する

**税所** 自動的にインスリン投与量が記録されるというのがSoloSmart®の一番のメリットではないでしょうか。インスリンの頻回注射をされていてその投与量を把握したい方や、カーボカウントをされている場合はインスリン量を毎回手入力するのが大変ですので、とても便利だと思います。また、医療従事者にとっても、インスリン投与量と血糖値の関係を把握できるということは、患者さんの生活を把握できるということでもあり、SoloSmart®を導入することにより、より的確な指導につながっていくのではないかと期待しています。

**大坂** インスリン治療では打ち忘れが大きな問題となりますが、その懸念は高齢者だけではなく誰にでもあります。インスリン接種の客観的なデータが取れるというのは患者さんにとってもありがたい機能ですし、データはBluetoothで自動的に同期されるので手間がかかりません。

デジタルデバイスを活用する上で、これはとても大切なポイントです。シンクヘルスの導入に難渋するような場合でも、SoloSmart®の利便性に魅力を感じていただければ、併せて導入という流れも考えられるのではないでしょうか。

**前田** 本当に大坂先生のおっしゃる通りですね。どんな人でも打ち忘れはある、だからこそインスリン注射を記録するデバイスにはリマインダーとしての役割が求められます。それがセルフケア行動を継続してもらうための重要なポイントです。インスリンの投与量や時間を記録することは患者さんにとって大変な負担でしたが、Solo Smart®だと自動的に記録され、食事や運動の記録と合わせて確認することができます。これは医療従事者にとっても大きなメリットです。SoloSmart®を活用し、患者さんの治療行動を把握することで、適切なケアの実践につながっていくことに期待したいと思います。



- 限られた診療時間で患者さんの血糖記録を把握することに限界がある。
- 適切な治療提供のため、情報の集約を図りたい。
- PHR導入にあたり、使い方や説明の仕方が不安。



- 血糖値や投与時間・投与量を記録するのは手間に感じる。
- 投与や服薬を忘れたことがある。
- PHRは常に監視されているようで心理的に負担。

